

景観まちづくりかわら版

浦添市景観まちづくり市民会議

発行日:平成 18 年 12 月 18 日発行
発行者:浦添市景観まちづくり事務局
(浦添市都市計画部美らまち推進室)
TEL:876-1234(内線 4061~4064)
FAX:879-7138
E-Mail:tyuramachi@8761234.jp

第6号

第6回浦添市景観まちづくり市民会議は、12月5日(火)に浦添市役所6階 601 会議室で開催され、市民会議の委員をはじめ、都市計画課等の市の職員が参加しました。

今回は、これでの検討を踏まえ、景観計画の「骨子案」と「方針表たたき台」を作成し、骨子案を確認しながら、方針表たたき台について検討を行いました。その主な内容を以下に紹介します

<理念・目標と方針について>

- ・理念や目標に「市民」という言葉が入っているが、方針にはその表現がない。
- ・目標にある「協働の風景づくり」を方針に掲げるには、①「顔づくり」という方針に入れる、②大方針として「顔づくり」、「表情づくり」、「キメづくり」に続く4番目に入れる、の二つの方法がある。
- ・理念にも「てだこ市民による～」とあるので、方針の全てに「協働」と入れる必要があるとは思わない。どうしても実現するかを議論すべきである。
- ・全体にかかるようにしないと、方針毎では細かくなり過ぎてしまうのではないかな。
- ・市民が協働して実現するために、方針に受け継いでいく文言が必要。
- ・「協働」については事務局も重要だと考えているので、方針に入れるということも含めて議論は次回とする。

<方針 顔づくりについて>

○緑の両翼

- ・資料P.5の1.(2)在来の森を再生するとあるが、素晴らしい緑もあるので「保護・再生」として欲しい。

○水緑の大循環

- ・海浜は自然や環境と共生しないと出来ないと考えているので、もっと具体的な表現がいいと思う。例えば、「カーミージー周辺の海域、地域、市民が取り組む環境、海浜の生き物と共生する里浜づくり」など。
- ・2.(2)については、③カーミージーにおける多様な生物と人との共生とし、(2)では「潮の薫りと共生のある里浜を活かす」というのではどうか。

○心のよりどころ

- ・資料P.5の3.(1)～浦添グスクを再生するとあるが、グスクだけなのか。グスクとそれを取り巻く風景とした方がいいと思う。
- ・茶山自治会で浦添グスクとの関連で茶山御殿(茶山の畑)を計画している。茶山からグスクに上がる正門の復元となるので、これもどこかに入れられないか。

○シンボルロード

- ・県道38号線は図面では都市軸としてシンボルロードになっているが、方針表P.5に載っていない。西原から西海岸に向けて30m道路に拡幅する計画もあるので、都市軸としての位置付けも必要。
- ・4.シンボルロードの「(1)歴史の道～」は3.心のよりどころに入れず、そのまま良いと思う。グスクに関連した資産として、エリア一帯を一つのシンボルとして捉えた方がいいと思う。歴史の道の沿道には関連した小さな遺跡がある。歴史街道と心のよりどころは一緒にしない方がいいと思う。
- ・道路が出来ることによって里浜に行く道が遮断されるのではないかという心配もある。里浜が市民に開放できなくなるのではないかな。景観を含めた構造的な検討に対して意見を述べていく必要がある。

<方針 表情づくりについて>

○伝統集落地区

- ・資料P.7の5.(1)～クサティ森を保全・回復するとあるが、②の3集落の他に前田も入るのではないかな。前田集落から入った所に大きな拝所があって伝統行事もあるので修正して欲しい。

○その他

- ・「7.既存区画整理」と「8.商業業務」は身近な部分だが、意見が少ないので具体的な意見をいただきたい。
- ・大潮の時に地域の浜下りや体験学習が行われたりするので、そういった写真を使った方が人と自然の共生という点で分かりやすいと思う。写真は沢山あるので提供したい。
- ・今回の宿題は、資料P.11～21の類型別のイメージを膨らまして表現や写真について考えてくる。必要であれば写真提供等で協力する。
- ・宿題という訳ではないが、皆さんも考えてきていただきたい。メールなどで写真や意見を事務局に送信してもらえれば、次回までにA4の資料については更新できると思う。

